

## 実践例について

### 【実践例の利用に当たってのお願い】

こちらで紹介する実践例はあくまでも一例であり、実践の参考としてご覧ください。実践をする際は、地域や学校、学年やクラス等の実態に合わせた活用をしていただきますようお願いいたします。

### 授業アイデア

- ①小学校 『総合的な学習の時間』 高齢者疑似体験セットを使った実践例
- ②高等学校 『家庭科』 高齢者疑似体験セット・妊婦疑似体験セットを使った実践例

### 教材研究や研修等に係るアイデア

- 教材研究 『イヤーマフを使った教材研究』  
体験を通して多様性への理解につなげる

小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）総合的な学習の時間編より

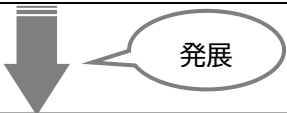
学習指導要領解説では目標について、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とし、「(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」としています。内容の一つとして「現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題」について「社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人々が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、これらの課題については正解や答えが一つに定まっているものではなく、(中略) 総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。」と解説しています。



単元例

【単元名：「みんなにやさしい社会を考える」】

次	項目	内容（キーワード）
1	社会にはどんな人がいるのだろう～身近な駅から考えてみよう～	・自分以外にどのような人が利用しているか ・駅にはどのような工夫があるか（バリアフリーとユニバーサルデザイン）
2	「みんなにやさしい社会」を考えよう	・おじいさんやおばあさんと自分との違い ・高齢者の疑似体験と介助者の体験を通して気付いたことの話し合い ・自分にできることは何かを考える
3	「みんなにやさしい社会」について考えたことをまとめよう	・みんなにやさしい社会 ・これから自分が取り組んでみたいこと ・壁新聞



『2「みんなにやさしい社会」を考えよう』の中で…  
高齢者の疑似体験や介助者の体験を通し、自分とは異なる他者のことについて想像したり、考えたりする。「みんなにやさしい社会」とはどのような社会か、そのために自分が取り組みたいことを具体的に考えてみる。

# 学習指導案（例）

小学校 総合的な学習の時間 単元名「みんなにやさしい社会を考える」

「2-2 「みんなにやさしい社会」を考えよう（第2次の2・3時間目）」

《本時のねらい》

- ・身近な社会の中で、自分以外にも様々な人々が生活していることを考えることができる。（知・技）
- ・高齢者や障がいのある人が生活する上で、必要なこと（もの）や気持ちを考えることができる。（思・判・表）
- ・「みんなにやさしい社会」になるために必要なことに気付き、自分にできることを見つけることができる。（学）

**POINT**

社会には様々な人がいるということへの気付きを大切にしましょう。疑似体験を通して、一人ひとりが生活しやすい社会になるために自分自身ができることを考えられると良いでしょう。

《活動の流れ》（45 分間×2コマ連続）

時間	主な学習活動	指導上の留意事項	資料・準備
： (5分)	1. 前時の振り返り 2. 本時の内容を知る	<b>POINT</b> 前時では、具体的なイメージを持ちやすい場所を「駅」に限定して考えました。自分以外に駅を利用している人、駅にある工夫など前時の内容を振り返った上で本時の内容を進めると良いでしょう。 ※取扱うテーマ（駅等）は、地域や学校の実情などにより工夫しましょう。	
： (40分)	3. おじいさんやおばあさんと自分たちとの違いについて考えたことを共有する。 ・目が見えづらくなる、耳が遠くなる、腰が曲がる等 4. 体験してみよう。 ・二人一組となり、耳チーム、目チーム、腰が曲がるチーム、ひじひざチームで体験をする。 ・一人は体験をし、もう一人は、介助者として付き添うことを体験する。	<b>POINT</b> 体験から気付いたことについて話し合うことを予告し、体験への意識を高めると良いでしょう。 ・高齢者疑似体験セット（イヤーマフ、視覚障害ゴーグル、前かがみ姿勢体験ベルト、ひじひざサポーターと重り）の安全な使用方法を確認する。	
： (25分)	5. 体験の振り返り（個人ワーク） ・どのように感じたか（高齢者体験者、介助者として） ・駅を利用したり、町で暮らしたりするときに、あると便利なもの、ないと困るもの ・周りの人はどうしたら良いか、自分には何が出来るか 6. 体験した二人一組で、ワークの内容について話し合い、自分のワークシートにまとめる。	・振り返りは個人ワークで行い、体験者同士で共有できるようにする。 <b>POINT</b> 体験した気付きと共に、もし駅や町だったらどうかなど、場所を設定することでイメージを持ちやすくしたり、話し合いを通して考えを広げたりできるようにしましょう。	・ワークシート(1)の続き
： (20分)	7.まとめ ・話し合いで出た内容を共有する。 ・まとめを聞く。 ・考えたことや気付きをまとめる。	<b>POINT</b> 学習活動5では、児童から様々な意見が出されると想定されます。それらの意見を肯定的に受け止めましょう。学習活動7の「まとめ」では、 <b>高齢者等に特化するのではなく、「様々な人がいること」「様々な人と一緒に生活していること」への気付きや理解を育みます。</b> 本時のように一人ひとりが考え続けていくことが大切です。	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・社会には、自分以外にも様々な人々が生活していることを理解している。	・高齢者や障がいのある人が社会で生活するときに必要なことや気持ちについて、考えたことを表現している。	・体験したことや自他の考えをもとに、自分にできることを見付けようとしている。

家庭科の目標（平成30年告示 高等学校学習指導要領）

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。
- (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

例えば『家庭基礎』では、次の内容のまとまりの中で、共生社会やインクルーシブについて考えることができそうです。

- A 人の一緒と家族・家庭及び福祉
  - (3)子供の生活と保育、(4)高齢期の生活と福祉、(5)共生社会と福祉
- C 持続可能な消費生活・環境
  - (3)持続可能なライフスタイルと環境



このうち今回は、家庭基礎の「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」の「(5)共生社会と福祉」の授業において、共生社会やインクルーシブについて考える実践例を紹介します。

(5)共生社会と福祉の内容

〈高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）家庭編より〉

- ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。
- イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。

内容のまとまりごとの評価規準例

〈「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校家庭より抜粋〉

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している	家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

高等学校学習指導要領解説では、「家庭総合」の「共生社会と福祉」について、「乳幼児期から高齢期までの人の一生を見通して、家族・家庭の生活課題を主体的に解決していくために必要な福祉や社会的支援について理解し、年齢や障害の有無に関わらず、それぞれの有する力を生かしながら共に支え合う社会を実現するために、家庭や地域がどうつながり、支え合ったらよいかについて実践的・体験的な学習活動の充実を図り、実感を伴って理解を深めることができるようにする。また、共に支え合う社会の一員として主体的に行動する意思決定能力を身に付け、家庭や地域及び社会の生活を創造していくための課題について考えることができるようにする。その際、多様なニーズをもった人々が、それぞれの個性を生かしながら共に支え合って生きる社会をつくるためにはどのようにつながり支え合ったらよいかを具体的な事例を通して考察することができるようにする」ということがねらいとして解説されています。

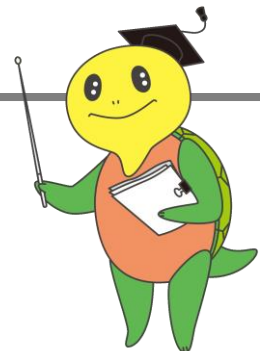
## 単元例

【単元名：「共生社会と福祉について考える」】

次	項目	内容（キーワード）
1	共生社会について知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共に支え合って生きる社会の考え方</li> <li>・社会福祉の基本的な理念</li> <li>・ノーマライゼーション</li> </ul>
2	社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的制度と支え合いの構造</li> <li>・自助、共助、公助、互助</li> <li>・現代社会の現状</li> </ul>
3	共に支え合って生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー、ユニバーサルデザイン</li> <li>・社会の一員としてできること</li> <li>・共に支え合う社会を実現するためにできること</li> </ul>



「3 共に支え合って生きる」の発展として…  
 体験活動を通し、社会を構成するすべての人々が、地域で当たり前で生活する「インクルーシブな社会」を実現させるためにできることについて考察する。



## 学習指導案（例）

高等学校 家庭・家庭総合 単元名「共生社会と福祉について考える」

「3-2 共に支え合って生きる ～体験を通してインクルーシブな社会を考えよう～」(第3次の2・3時間目)

《本時のねらい》

- ・自分の身近な地域における様々な人々との関わりや課題を理解する。(知・技)
- ・「インクルーシブな社会」の実現に向けて、共に支え合って生活することの重要性や、共生社会の実現に向けて自分にできることについて考察する。(思・判・表)(学)

### POINT

社会が様々な人々で構成されていることや、一人ひとりにとっての多様なニーズに気づき、社会を構成するすべての人が地域で当たり前のように生活する「インクルーシブな社会」を実現するために何が出来るだろう…という視点を大切にしましょう。

《本時の流れ》(50分×2コマ連続)

時間	主な学習活動	指導上の留意事項	資料・準備
: (10分)	1. 本時の学習内容を知る 2. 本時の目標を知る。		
: (40分)	3. 体験を通し、社会を構成する人々について考える。 ①疑似体験者、介助者、観察者を班ごとに交代で体験する。 ・疑似体験は、高齢者又は妊婦のどちらかを体験する。 ・観察者は、疑似体験者と介助者の様子を客観的に観察する。 ②体験の振り返り ・各班での体験による気づきをワークシートにまとめる。 ・自分とは異なる他者の存在や人々のニーズにどのようなものがあるかを考え、まとめる。	<p><b>POINT</b> この体験活動では、「大変」「疲れる」などの感覚だけでなく、日常と異なる立場の体験から、普段気づきにくい「多様なニーズ」について気付けると良いです！</p> <p>・班の人数や数は、生徒数によって調整する。 ・体験時は、転倒等の事故のないよう留意する。</p>	<p>・高齢者疑似体験セット ・妊婦疑似体験セット</p>
: (40分)	4. 「インクルーシブな社会」を考える 「インクルーシブな社会」が実現できているか、実現のために必要なこと、自分にできることについて、これまでの学習と関連付け付箋を使って各班で考察し、まとめる。 5. 発表 班ごとに、発表を行う。	<p>・話し合い時のルールを示す。</p>	<p>・模造紙 ・付箋 ・カラーペン</p>
: (10分)	6. まとめ 本時の学習内容を振り返り、教員のまとめを聞く。	<p><b>POINT</b> 学習活動4では、これまでの学習と関連付けられるよう、キーワードを抽出し、話し合いを促すことも良いでしょう。生徒から上がる様々な意見を、肯定的に受け止めましょう。 「まとめ」では、「社会は多様な人々で構成されており、自分自身もその一人であること」への気づきや理解を育みましょう。一人ひとりが「インクルーシブな社会」の実現に向けて、本時のように考え続けていくことが大切です。</p>	

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 規準	・共生社会の実現に向けた現代社会の状況について理解している。	・インクルーシブな社会の実現に向けて必要なことを考察し、表現している。	・これまでの学び、体験活動、自他の意見を関連付け、自分にできることを考えようとしている。



※当センターで貸出しを行っているイヤーマフは、「音を遮断する」ことがどのような状態かを「体験できる」ものです。（体験用のイヤーマフは4つ貸出可能です。）

### 教材研究等

児童・生徒には、聴覚に過敏さがある場合があります。聴覚に過敏さがあると、例えば、大きな音や気になる音（音の大小にかかわらず）がする場面で、頭痛がしたり、落ち着かなくなったり、動けなくなったりします。また、自分では集中したくても、音が気になってしまい、なかなか集中することができないという場合もあります。

イヤーマフには音を遮断する効果があり、装着することが児童・生徒の助けになる場合があります。例えば、授業中や苦手な音がすることが予め分かっている場面では、着けることにより一定の音を遮断し、過敏さからくる不快感を軽減できることで、過ごしやすくなる場合もあります。

しかし、一人ひとりにとってその感覚は異なるため、過敏さがある場合に必ず着けた方が良いという訳ではありません。必要な場面で、必要なときに自分から使うことができるよう、教員は適切に支援することが大切です。



### 使い方アイデア

【教員間でイヤーマフを体験し、多様性の理解につなげる！】

- 体験者以外➡ 一斉に話をする
- 体験者 ➡ 本を読む（イヤーマフのある・なしで体験）

イヤーマフの装着体験をし、感想や意見を共有してみましょう。  
例えば、「音が何も聞こえなくなる訳ではない」ということや、「ざわざわした感じが軽減されるので落ち着く」などの意見を共有できると良いでしょう。

使用のメリットを知り学年や学校の教員同士で共有できていることは、児童・生徒に対する理解を育む上でも大切です。

関連情報：  
イヤーマフ、耳栓、ノイズキャンセリングイヤホン 等

※イヤーマフには、全ての音を軽減するタイプと一部の音を軽減するタイプ（ノイズキャンセリング）があります。当センターで貸出しできるものは、全ての音を軽減するタイプです。



共生社会実感パッケージ～インクルーシブ教育の実践を支援します～  
使い方ガイド（令和5年11月改訂）

【問合せ先】

〒251-0871 藤沢市善行7-1-1

神奈川県立総合教育センター 教育支援部 学校教育支援課

インクルーシブ教育支援班 「共生社会実感パッケージ」担当者

電話（0466）-81-1582（直通）

